



福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部

TEL03-5427-1050 FAX03-5427-1190

<http://www.f-ikurin.jp>



## 年頭にあたって

(財) 福澤記念育林会  
理事長 井田 良

あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、福澤記念育林会のためにご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

昨年、慶應義塾は、次の歴史の節目に向けて力強く一步を踏み出しました。日吉キャンパスでは、第4校舎独立館が使用を開始し、蝮谷体育館も竣工いたしました。信濃町キャンパスでは、3号館（北棟）の新築工事が始まりました。三田キャンパスでも、南校舎の建替えが始まっています。三田の「顔」も、見違えるようなものとなることでしょう。もちろん、ハードの面ばかりではありません。新聞を見れば、塾の先生方のさまざまな研究活動や、塾生諸君の文武両面にわたる活躍が、連日のように報道されています。経済学部名誉教授で、歴史人口学で有名な速水融先生が文化勲章を受賞されるという大変喜ばしいニュースもありました。

今日までの慶應義塾の進化・発展を可能にしてきたものは、塾に学んだ者が生涯にわたって塾を愛する心、すなわち愛塾心であるといえましょう。そして、それが、福澤先生に由来する慶應義塾建学の精神に共鳴する気持ちと大いに関係するものであることについては多くの方が賛成して下さるのではないのでしょうか。福澤先生は慶應義塾をつくり、門下生に託されました。多くの優秀な門下生たちが先生の委託に応えて塾を担い、これを支えて現在まで進化・発展させてきました。私たちはそういう過去の世代の人々への責任を負っています。とてつもなく重い責任です。

他方、今は、持続可能性が問われる時代です。近未来における人類の存続そのものが自明ではなくなっているのです。人口問題、資源問題、核戦争やテロの危険、地球温暖化問題等の環境問題、生命科学の進歩による生命操作の問題、パンデミック等の感染症問題等々がいま喫緊の問題として問われているのです。私たちは、これから生まれてくる未来世代の人々、人類そのものに対してわれわれは責任を負っています。とてつもなく重い責任です。

創立150年を過ぎての慶應義塾の役割は、このような過去への責任と未来への責任を2つながら担い、果たしていくところにあるといえるのではないのでしょうか。そして、育林会の活動もまた、そのような中に位置づけることができる、そして位置づけられなければならないと考えています。

最後になりましたが、この一年が皆さまにとりまして、幸多き年でありますよう、心よりお祈りいたしますとともに、育林会へのご支援とご協力を切にお願いする次第です。

---

## 「友情資産の森」訪問バスツアー

117 三田会 對馬好一

平成21年11月7日土曜日の早朝、昭和51年に法学部を卒業したメンバーを中心にした43人が、東京駅丸の内北口の日本工業倶楽部前に集まり、貸し切りバスで栃木県・那須黒羽の「友情資産の森」を目指しました。

この学年は卒業25年を迎えた平成13年、「友情資産」をテーマにさまざまな事業を展開しました。そのひとつとして、「『友情資産の森』を作ろう」と翌14年、全学部の同期数十人が参加し、同地で福澤育林会が所有する山林の一角に、数百本のヒノキやサクラの苗を植えました。

今回のツアーは、そのうちの法学部を中心とした有志が「7年間の歳月を経て、すくすくと育った木々の姿を見よう」と企画したものです。1年以上前から周到に計画を練り、11月7日という日取りも、第117期卒業であることから、それに因んで決めました。参加者の中には、7年前には都合で参加できな



かった人たちも多く、それぞれが「自分たちで植えた木がどんなに育っているか」「どんな場所に『友情資産の森』があるのか見てみたい」と期待を膨らませ、何度か東京都内で開いた準備会も盛り上がり、育林と観光を含めたツアー企画の内容は徐々に盛りだくさんになっていきました。

抜けるような秋晴れに恵まれた当日は、東北自動車道が大混雑。それでも、「山での作業があるから」と、往路のアルコールは自粛。車内では幹事が事前に袋詰めしたお菓子とペットボトルを手に、7年前の山の写真などを見ながらバス旅行を楽しみました。

現地到着は約1時間遅れ。事前に案内をお願いしていた地元営林署の方々をすっかり待たせてしまい、申し訳ないことをしてしまいました。

バスを降り、営林署で用意していただいたヘルメット、軍手を着け、腰に枝うち用の鋸をつるし、さあ、出発。林道を十数分歩いたところにある「慶應義塾大学分収林『黒羽・友情資産 25年の森』」の看板の前で記念撮影となりました。付近の山林は3kmを越す若いヒノキが茂り、林道からは周りの山々はほとんど見渡せません。

「木が大きく育って、植えた時とはまったく様子が違う」「あのはげ山がこんな森になるとは」

7年前に植林に訪れたメンバーを中心に、景色の変容にびっくりするやら、木々の成育に感激するやら大騒ぎ。みんなで早速、森の中に分け入り、「育った子どもに会いに来たみたい」と木の幹をそととなでたり、木をバックに写真を撮ってもらったりする姿があちこちで見られました。

営林署の方に鋸の使い方を教わり、見よう見まねで下枝落としに精を出しました。日差しが強かっただけに、数分もすると、汗が噴き出し、木々の臭いに包まれ、爽やかな気分になることができました。しかし、バスが遅れた分、滞在時間は短く、1人あたり数本の木の下枝を落とすのがやっと。「これでは、森の手入れに来たのではなく、営林署の皆さんの仕事を増やしに来ただけだ」との声も漏れ、不完全燃焼に終わった一面もあったようです。

そうした中で、7年前に幼稚園児として植林に加わり、今回も家族で特別参加した経済学部同期の鏑木敏嗣さんのお嬢さんの綾ちゃん、今は中学生になっています。「私が植えた木はどれだかわからなかったけど、木は私よりも大きくなっていて」と、うれしそうに微笑んでいました。

営林署の方々に、心からのお礼を言い、麓に下りてアユ料理でようやく乾杯。さらにメンバーの福井陽子さんのご縁戚「菊の里酒造」の蔵元を見学（試飲が目的？）し、帰りの車中は蔵から出したての清酒で盛り上がりました。解散後も東京駅付近のガード下の居酒屋に繰り込み、山のすがすがしき、「友情資産の森」の豊かさに、いつまでも祝杯を挙げる参加者が多数いました。

今回のツアーは、同期の仲間、林業を営む速水亨さん、紫乃さんご夫妻のご指導と地元営林署の皆さんの支えがあったからこそ、実現することができました。同期一同、今後ともこうした方々のご協力のもと、「黒羽・友情資産 25年の森」を大切に育てていくことを誓い合いました。

俳句をたしなむ西篤志さんが一句。

### 落ち葉踏み 見上げる植林 友の顔

(事務局より)

今回、「友情資産の森」バスツアーに参加されました117三田会の皆様、どうもお疲れ様でした。天気にも恵まれ楽しい思い出が、また一つ増えたことと思います。これからも10年、20年…と長い期間での成長を見守っていただけたらと願っております。

また、皆様から訪問ツアーの残金のご寄附をいただきましたので、義塾の山林の育林活動資金として使わせていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



## 福澤記念育林基金の平成21年度採択決定

福澤記念育林基金では、基金による活動支援、研究支援、海外派遣支援の募集を実施しました。海外派遣支援の募集を平成21年3月末に締め切り、また活動支援・研究支援の募集を9月末に締め切り、選考委員会で慎重に審査しました。

平成 21 年度募集の結果については、以下の通りです。

(活動支援)

応募 4 件

採択者 北海道大学大学院農学院 佐藤 広行 氏  
テーマ；北海道奥尻島におけるチシマザサ林床のオクシリエビネの保護と保全  
について

(研究支援)

応募 6 件

採択者 筑波大学生命環境科学研究科 廣田 充 氏  
テーマ；成熟した自然林は、本当に二酸化炭素を吸収しない？  
～遷移にともなう森林生態系の炭素蓄積機能の再評価～

(海外派遣支援)

応募 4 件

採択者 東京大学大学院学際情報学府 岳 綾子 氏  
テーマ；米国における環境 C S R (Corporate Social Responsibility) 研究と  
環境ビジネス調査研究

今回の応募では、活動支援については、活動支援と研究支援の区分をどのようにするか考えさせられる申請が多かった。研究支援については、面接し研究の方向性を確認しないと判断し難い申請や 3 テーマと直接の関連がないものが多いように感じられた。また、海外派遣支援については留学先でこの研究を将来どのように繋げていくのか申請書では理解できなかつたため、選考委員に対しプレゼンテーションを実施して決定した次第で、審査判定が難しくなっているようです。

選考委員会では募集テーマ等を検討してまいります。より多くの方々の応募をお待ちしております。また、今回残念ながら不採択になった方々は、更なるチャレンジをお願いいたします。

---

## 平成22年度「森を愛する人々の集い」の案内

---

毎年皆様にご参加いただいております「森を愛する会」も今年で第9回となります。

研究助成金支援団体の発表、多彩なゲストによる講演会、そしてその後和気藹々とした雰囲気の中行われる懇親会と毎回有意義な会となっています。

平成 22 年 6 月中旬に三田キャンパスにおいて、若者に人気の作家三浦しをん氏をお迎えして速水亨氏との対談形式でご講演いただく予定にしております。

三浦氏は「素人が飛び込んで体験する」というコンセプトが得意で、林業に関しても若者が林業地にやってくる地元の人々と仲良くなり林業に従事する内容の作品(神去なあなあ物語；徳間書店)を三重県尾鷲地区近辺で取材されて書かれています。

【三浦しをん氏のプロフィール】東京都出身。父は上代文学・伝承文学研究者の三浦佑之。横浜雙葉中学高等学校から、早稲田大学第一文学部演劇映像学科に進む。当初、編集者志望であり出版各社への就職活動中、早川書房での入社試験の作文から、担当面接者であった編集者(村上達朗)に執筆の才を見出され、村上が早川書房を退社後に作家に転進するよう、勧められる。

1999 年 3 月、同大学卒業。

2000 年 4 月、就職活動の経験をもとに処女小説『格闘する者に〇』(草思社)を出版。これに先立ち、1998 年 11 月から、Boiled Eggs Online のサイトにおいて、ウィークリー読書エッセイ『しをんのしおり』を連載する。

2005 年『私が語りはじめた彼は』で山本周五郎賞候補、7 月『むかしのはなし』で直木賞候補、

2006 年『まほろ駅前多田便利軒』で上半期直木賞を受賞。誕生日前の 29 歳での受賞であり、20 代での直木賞受賞は、堤千代、平岩弓枝、山田詠美に続いて四人目である。少女漫画やボーイズラブ作品に造詣が深いことが知られており、好きな行為は妄想。現在、雑誌『コバルト』にてコバルト短編小説賞の審査員もしている。

2008 年から太宰治賞選考委員。

2009 年から手塚治虫文化賞選考委員。





## 「志津川研修旅行の思い出」

あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

「縁」エン・ふち・へり・えにし・ゆかり・よすが・よる

「縁」は、「ご縁」とか「良縁」「奇縁」というように「ゆかり」という意味で使うのも、物の外側から見えるつながりや関係をたどることに由来する。人は一人では生きていくのではないということを実に表わす言葉である。ふとしためぐりあわせの不思議さや、必然とさえ思えるような出会いを、日本では「縁」という言葉で表現してきました。人が結ぶ絆のさまざまな姿を捉えることで、豊かな心につながります。

「ご縁」があつて平成21年9月5日～6日（日）の第8回志津川研修旅行に、夫婦（正岡邦彦、純代）で参加させて頂きました。



「ご縁」があつて平成21年9月5日～6日（日）の第8回志津川研修旅行に、夫婦（正岡邦彦、純代）で参加させて頂きました。週間天気予報では、5日が曇り時々雨、6日（日）曇りとなっていました。雨具等の準備も怠りなく出陣いたしました。くりこま高原駅にはじめての研修旅行ですから、緊張、真摯な気持ちで降りたちました。塾旗の小旗が晴天の下、翻っていました。塾員の「海老名商店」にて昼食。これがまた、

B級グルメの油麩井ではじめての食感を体験しました。「さんさん館」「ひころの里」「神割崎」と全て幹事の皆様のご配慮周到な準備の下、晴天の下、楽しい見学をさせて頂きました。新人夫婦と言うことで、宿泊も「ホテル観洋」のナイスビューウ室を準備いただく気配りに感激いたしました。懇親会の食事も素晴らしい料理が並び、久方この様な大名旅行の経験がないものでしたので感涙いたしました。



6日（日）は、「志津川山林」にて森林散策、伐採、枝打ち体験等、家内共々初めてのことでこれまた感動しきりでありました。「ご縁」があつて、諸先輩方が植林され、立派に成長している杉やヒノキを見て、また本当に塾員の豊かな気持ちになりました。

「ホテル観洋」にて昼食、入浴（太平洋を目の前にした露天風呂）。その後、十日町の「おさかな通り」でのお買い物と続き本当に素晴らしい大研修旅行と相成りました。

「ご縁」で私共夫婦は、当研修旅行に初参加大感激をいたしました次第です。次回（本年のリンゴ摘み旅行）も必ず参加！と家内から指定されております。その時はまた宜しくお願い申し上げます。

塾員また、塾関係者を始め幹事の皆様方のご配慮は痛いほど感じ、感動をいたしております。特に海瀬様におきましては、旅の余韻も覚めやらぬ時に、2009年（財）福澤記念育林会志津川山林研修旅行の写真アルバム小冊子を自作でお創り頂き送付いただきました。感動です。この様な素晴らしい研修に参加できた「ご縁」を本当に大切にしながら今年も過ごしていければ幸せと感じた次第です。

本当に有難うございました。

正岡邦彦

## 平成22年度「研修旅行」の予定



平成22年9月11日（土）、12日（日）岩手県盛岡市周辺の旅行を計画しています。

（財）福澤記念育林会評議員、林業三田会の三田義三さん所有の農場およびアカマツの山林を中心に見学させていただきます。三田さんの農場ではりんご狩りの体験もできます。また、岩手県は環境に配慮した発電の先進県でもあり、バイオマス発電などの見学も予定しております。

詳細は、またお知らせいたしますが、皆様ふるってご参加ください。